

2025 年度 事業報告書

自 2025 年 4 月 1 日
至 2026 年 3 月 31 日

公益財団法人野田産業科学研究所

I. 事業

I-A. 研究事業【公1】

1. コンソーシアム事業

本事業は、発酵化学分野の研究を複数の大学が連携して実施し、より優れた研究成果の創出をめざすコンソーシアム事業として、2024年度に開始した。研究期間は3年間とし、各大学に毎年度1,300万円（オーバーヘッド含む）の研究費を支給する。事業は全体を3つのグループに分けて実施しており、研究題目と大学・機関、及び担当者は以下のとおりである。

事業の進捗状況及び内容を評価するため、2025年6月25日にコンソーシアム事業評価委員会を開催した。進捗概要を別冊資料1（頁1）に記載する。

グループ	研究題目	大学・機関	担当者
1	真核生物に普遍的に保存されたヘムレセプターの生理機能解明	東京科学大学	田中 寛
	糸状菌の多核細胞における核分裂の制御機構解明と産業的有用機能開発への利用	東京大学	丸山 潤一
2	糸状菌における二次代謝産物の細胞外排出機構の解明と生産性向上への基盤構築	東京大学	葛山 智久
	輸送酵素に着目したゲノムマイニングによる糸状菌二次代謝産物の探索と生合成	東北大学	尾崎 太郎
3	麹菌におけるハイスループット形質転換系の構築	東京大学	岩間 亮
		理化学研究所	芝井 厚

I-B. 研究育成事業【公2】

1. 研究助成

(1) 2025年度「野田産研研究助成」の「研究助成」8件（1件200万円）と「奨励研究助成」6件（1件200万円）、そして「研究助成（持続可能分野）」6件（1件200万円）の助成対象者に対し、助成金及び記念盾を贈呈した。助成対象者については（頁9）に記載する。

(2) 2026年度助成の公募を行い、「研究助成」39件、「奨励研究助成」41件、「研究助成（持続可能分野）」24件、計104件の応募があった。選考委員会による助成対象候補の選考を経て、2025年度第2回通常理事会にて2026年度助

成対象 21 件を決定した。

(3) 2023 年度助成対象者による研究成果報告会を 2025 年 5 月 30 日にパレスホテル東京にて開催した。

2. 微生物ウィーク 2025 への寄附実施

本シンポジウムは、東京大学が主催、3 大学の共催により実施された応用微生物分野の研究者による講演会であり、2025 年 7 月 28 日から 8 月 2 日までの 5 日間にわたり開催された。当財団は、本事業が発酵化学分野の研究推進及び学術交流の促進に資するものと判断し、寄附金として 100 万円を拠出した。なお、本件は 2025 年度開始後に具体的な開催内容及び実施時期が確定したため、本議案書にて報告する。

I-C. 創立 75 周年記念事業【公 2】

1. 東北大学寄附講座

本寄付講座（担当：阿部敬悦先生）は 2024 年度に開始し、2028 年度までの実施を予定している。本年度は、2026 年度分として 5,000 万円を寄付した。

I-D. 創立 80 周年記念事業【公 2】

1. 共同研究

当研究所では、これまでに麹菌のゲノム情報を基盤とした研究を実施し、*Ku70* 欠損株の取得や、それを用いた転写制御遺伝子破壊株ライブラリーの構築、さらに二次代謝生合成遺伝子クラスターに関わる発現制御遺伝子の解明などの研究成果を得てきた。2021 年度からは、この転写制御遺伝子破壊株ライブラリーを活用して、大学との共同研究を進めている。

2025 年度の実施内容は以下のとおりである。（共同研究先）

1. 麹菌を検定菌とした抗真菌物質の研究（微生物化学研究会）
2. 麹菌のエルゴチオネイン生合成の制御メカニズムの解明（筑波大学）
3. 麹菌の各種制御機構の統合的理解（名城大学）
4. 麹菌におけるキシログルカン分解酵素群の転写制御機構の解析（香川大学）
5. 黄麹菌における非相同末端結合修復エラーを介したゲノム編集時に生じる大規模欠失の原因因子の同定（琉球大学）

この共同研究を推進するため、公益財団法人微生物化学研究会に 500 万円、筑波大学に 140 万円、名城大学に 200 万円、香川大学に 150 万円、琉球大学に 170 万円を寄附した。

2. 発酵化学シンポジウム

発酵化学分野における研究成果の共有を目的として、これまでに当財団の研究助成を受けた研究者を講演者として招いた「発酵化学シンポジウム（第2回）」を2026年2月9日にステーションコンファレンス東京において開催した。本シンポジウムはハイブリッド形式で実施し、参加者は講演者5名、現地参加者66名、オンライン参加者72名であった。講演会終了後には、同会場において懇親会を開催し、研究者間の情報交換の機会を設けた。

I-E. 学会等への発表

日詰 達哉、丹羽 達也、田口 英樹、田中 寛

出芽酵母 *Saccharomyces cerevisiae* における F-box タンパク質 HRT3 の機能解析（日本農芸化学会 2026 年度大会）

（野田産研関係者については下線で表記）

前田 一行、クナシュ アディープ ヘーサム、朱 梓燁、後藤 光生、
桑原 桃香、武 星歌、國武 絵美、小川 真弘、中嶋 佑一、木村 真

パラログをもたない糸状菌キシラナーゼレギュレーターの機能相補性に関する研究（日本農芸化学会 2026 年度大会）

荒川 弦矢、小川 真弘、進藤 斉、徳岡 昌文

麹菌 *Aspergillus oryzae* における転写因子 NctA のアミラーゼ系酵素生産への関与（日本農芸化学会 2026 年度大会）

後藤 光生、前田 一行、桑原 桃香¹、奥田 菜未、木下 昌、中嶋 佑一、
小川 真弘、木村 真

麹菌の有するⅡ型アラビノガラクトサン分解酵素遺伝子の性状解析
（日本マイコトキシン学会 第 94 回学術講演会）

Adeeb H. Qunash, Kazuyuki Maeda, Ziyue Zhu, Emi Kunitake, Masahiro Ogawa,
Yuichi Nakajima, Makoto Kimura
Impacts of Xyr1 transcription factor and culture conditions on
regulation of plant polysaccharide-degrading enzyme genes in *Fusarium
graminearum*
J. Appl. Microbiol. (2026), in press

Ⅱ．特定資産の設置（公益充実資金及び公益目的保有財産）

近年の基本財産及び特定資産受取配当金の増加により収支構造が変化し、中期的収支均衡（旧称：収支相償）及び使途不特定財産（旧称：遊休財産）が財務基準額を超過する見込となった。この状況に対して、法令及びガイドラインに適合した財務運営を行うため、これまでの「特定費用準備資金」を「公益充実資金」として集約するとともに、新たに「公益目的保有財産」を設置して、それぞれ1.8億円と4億円を積み立てることで、財務基準に適合させるとともに、将来の事業展開に備えた安定的な資金管理を図った。

Ⅲ．庶務の概要

（１）理事・監事に関する事項（2026年3月末日現在）

理事 定数：7名以上10名以内 現在：常勤1名、非常勤8名、合計9名				監事 定数：2名以上3名以内 現在：常勤0名、非常勤2名、合計2名	
理事・監事の 役職	氏 名	常勤・ 非常勤	就任日	重任日	職 名
			登記日	登記日	
代表理事 (理事長)	茂木 友三郎	非常勤	11.4.1 11.4.1	25.6.16 25.6.18	キッコーマン(株)取締役名誉会長 キッコーマン(株)取締役会議長
執行理事 (専務理事)	今井 泰彦	常勤	18.1.16 18.1.19	25.6.16 25.6.18	元キッコーマン(株)環境部長
理 事	江崎 信芳	非常勤	23.6.6 23.6.14	25.6.16 25.6.18	京都大学名誉教授
〃	太田 明德	非常勤	17.6.6 17.6.13	25.6.16 25.6.18	中部大学常勤監事 東京大学名誉教授
〃	長田 裕之	非常勤	23.6.6 23.6.14	25.6.16 25.6.18	(公財)微生物研究会 微生物化学 研究所 特任部長
〃	五味 勝也	非常勤	23.6.6 23.6.14	25.6.16 25.6.18	東北大学名誉教授
〃	佐藤 隆一郎	非常勤	25.1.31 25.2.5	25.6.16 25.6.18	東京大学特任教授
〃	原島 俊	非常勤	21.6.3 21.6.24	25.6.16 25.6.18	崇城大学特任教授 大阪大学名誉教授
〃	松山 旭	非常勤	15.6.17 15.6.19	25.6.16 25.6.18	キッコーマン(株)取締役 常務執行役員研究開発本部長
監 事	中村 聡	非常勤	25.1.31 25.2.5		東京科学大学名誉教授 沼津工業高等専門学校名誉教授
〃	森 孝一	非常勤	21.6.23 21.6.24	24.6.13 24.6.17	キッコーマン(株)常勤監査役

(2) 評議員に関する事項 (2026 年 3 月末日現在)

定数：10 名以上 15 名以内				
現在：常勤 0 名、非常勤 10 名、合計 10 名				
氏 名	常勤・非常勤	就任日 登記日	重任日 登記日	職 名
石井 正治	非常勤	21.6.3 21.6.24	23.6.6 23.6.14	東京大学名誉教授
梶山 直樹	非常勤	15.6.17 15.6.19	23.6.6 23.6.14	日本デルモンテ(株)代表取締役社長
木野 邦器	非常勤	19.6.13 19.6.18	23.6.6 23.6.14	早稲田大学教授
後藤 奈美	非常勤	25.1.31 25.2.5		(公財)日本醸造協会常務理事
小林 哲夫	非常勤	15.6.17 15.6.19	23.6.6 23.6.14	名古屋大学名誉教授
阪井 康能	非常勤	15.6.17 15.6.19	23.6.6 23.6.14	京都大学名誉教授
竹川 薫	非常勤	23.6.6 23.6.14		九州大学教授
中野 祥三郎	非常勤	25.6.16 25.6.18		キッコーマン(株)代表取締役社長 CEO
西山 真	非常勤	21.6.3 21.6.24	23.6.6 23.6.14	東京大学教授
堀切 功章	非常勤	19.6.13 19.6.18	23.6.6 23.6.14	キッコーマン(株)代表取締役会長

(3) 会議に関する事項

(3-1) 理事会

開催年月日	議 事 事 項	結果
2025 年 5 月 30 日 出席者：理事 8 名 監事 2 名 欠席者：理事 1 名	1. 2024 年度事業報告書承認の件 2. 2024 年度計算書類承認の件 3. 定款改定の件 4. 理事及び評議員候補の件 5. 通常評議員会開催の件	可決 可決 可決 可決 可決
2025 年 6 月 17 日 (書面決議) 同意者：理事 9 名 承認者：監事 2 名	1. 代表理事(理事長)選任の件 2. 執行理事選任の件	可決 可決
2026 年 3 月 16 日 (オンライン開催) 出席者：理事 9 名 監事 2 名	1. 2026 年度「野田産研研究助成」対象決定の件 2. 「発酵化学分野の未来調査事業」の件 3. 「食と健康に関する研究助成」実施の件 4. 「研究助成事業」改定の件	可決 可決 可決 可決

	5. 「野田産研研究助成」選考委員選任の件 6. 「新コンソーシアム事業」実施の件 7. 公益充実資金及び公益目的保有財産設置の件 8. 2026 年度事業計画案承認の件 9. 2026 年度収支予算案承認の件	可決 可決 可決 可決 可決
--	---	----------------------------

(3-2) 評議員会

開催年月日	議 事 事 項	結 果
2025 年 6 月 16 日 (書面決議) 同意者：評議員 10 名	1. 2024 年度事業報告書承認の件 2. 2024 年度計算書類承認の件 3. 定款改定の件 4. 会計監査人選任の件 5. 理事 9 名及び評議員 1 名選任の件	可決 可決 可決 可決 可決

(3-3) 監事会

2025 年 4 月 30 日 監事会をオンライン開催（監事 2 名出席）。
 2024 年度事業報告、理事の職務、計算書類につき監査を受け、監査報告書を受領した。

2025 年 10 月 8 日 監事会をオンライン開催（監事 2 名出席）
 有限責任あずさ監査法人（当法人が任意で会計監査を委託）より 2025 年度の監査計画及び監査報酬の説明を受け、合わせて監事の期末監査日程を打合せた。

(3-4) 委員会

2025 年 6 月 9 日 共同研究評価委員会を開催（委員 3 名出席）
 2025 年 6 月 10 日 発酵化学に関する未来調査小委員会を開催
 （小委員会メンバー 2 名出席）
 2025 年 6 月 16 日 食と健康に関する研究助成小委員会を開催
 （小委員会メンバー 1 名出席）
 2025 年 6 月 25 日 コンソーシアム評価委員会を開催
 （評価委員 4 名出席）
 2025 年 9 月 18 日 食と健康に関する研究助成小委員会を開催
 （小委員会メンバー 1 名出席）
 2025 年 12 月 19 日 研究助成選考委員会を開催（委員 8 名出席）

IV. その他法人運営上の重要事項

1. 当事業年度において年間報酬額が 1,200 万円を超える役員はいない。
2. 当財団では海外送金が行っていない。

V. 運営体制の充実のための取組

新たな公益法人制度においては公益法人の運営に係る透明性の向上、ガバナンスの充実が求められている。当財団では運営体制の充実を図るための取組として以下のことを整備し、次期事業年度から実施する。

1. 意思決定及び事務処理手続の明確化を図るため、「稟議規程」を設置。
2. 職務権限の記載内容を、稟議による決裁に加え、理事会及び評議員会の意思決定まで拡大・整理することにより、意思決定基準を明確にする。
3. 当財団は、法令上、会計監査人の設置義務は無く、これまで任意で会計監査人を設置してきたことから監査結果の理事会への報告等は行ってこなかったが、今後は、会計監査人による監査結果を理事会へ報告することにより、当財団の財務の適正性及び透明化の確保を図るとともに、財団運営に対する一層の信頼性の向上に努める。

VI. 業務執行理事の職務執行状況

前回理事会以降における職務執行の状況について、事業計画に沿って適切に遂行した。

VI. 事業報告附属明細書

特に記載事項に該当する事項はない。

以上

2025 年度研究助成対象者 (50 音順、敬称略)

「研究助成」

小笠原 泰志	北海道大学大学院 工学研究院
神戸 大朋	京都大学大学院 生命科学研究科
田村 康	山形大学 理学部
沼田 倫征	九州大学大学院 農学研究科
野村 亘	信州大学学術研究院
水谷 拓	東京大学大学院 薬学系研究科
水沼 正樹	広島大学大学院 統合生命科学研究科
両角 佑一	奈良先端科学技術大学院大学

「奨励研究助成」

鹿島 騰真	東京大学大学院 農学生命科学研究科
金井 雄樹	東京大学大学院 総合文化研究科
工藤 雄大	東北大学 学際科学フロンティア研究所
白石 晃将	京都大学大学院 農学研究科
永久保 利紀	筑波大学 生命環境系
二宮 章洋	東京大学大学院 農学生命科学研究科

「研究助成（持続可能分野）」

岡澤 敦司	大阪公立大学大学院 農学研究科
杉森 大助	福島大学 理工学群
中沢 威人	京都大学大学院 農学研究科
橋本 将典	静岡大学学術院 農学領域
廣田 隆一	広島大学大学院 統合生命科学研究科
福田 良一	東京大学大学院 農学生命科学研究科